

第18回日本認知症ケア学会大会 発表

題名；中鎖脂肪酸によるアルツハイマー型認知症の周辺症状改善効果の報告（第2報）
～表情を数値化して客観的に評価する～

氏名；佐々木明子¹⁾、吉田歌子²⁾、井出裕子¹⁾、加藤一彦³⁾、末満ひろみ³⁾、佐藤知栄実¹⁾、
増田洸司¹⁾、杉山妙¹⁾

所属；¹⁾日清オイリオグループ株式会社、²⁾でいサロン麦、³⁾医療法人彦仁会かとうクリニック

【目的】

アルツハイマー型認知症の方が中鎖脂肪酸を摂取することで『周辺症状（BPSD）の改善』と『笑顔が増えた』と言われる事例がある。そこで若年性認知症専門通所型介護施設『でいサロン麦』にて、中鎖脂肪酸摂取と表情変化の観察を行った。

【方法】

施設の新規利用者(若年性認知症 60代男性)に対し、通所開始時から3か月の未介入観察期間の後、中鎖脂肪酸油を6g含有するゼリー状食品を1日3回の食事に取り入れ、介入観察を行った。施設で『朝の談話』を行っている午前9時からの約1時間半の被験者の表情を家庭用ビデオカメラで撮影し、顔認証ソフト『オムロン株式会社製 画像センシング OKAO Vision 表情推定機能』による客観的観察及び介護者による『阿部式 BPSD 評価』と表情の主観的目視観察を行った。

【倫理的配慮】

倫理委員会の承認を得て、被験者・被験者ご家族及び施設長に研究趣旨を説明し、個人が特定されない方法での発表に文書にて同意を得た。

【結果】

顔認証ソフトによる表情解析では、中鎖脂肪酸摂取前後で笑顔の出現率が1.7%から2.3%へ約1.3倍に増加した。介護者の表情観察でも表情解析と同様に、中鎖脂肪酸摂取後に『笑顔が増加した』との評価結果が得られた。また『笑顔の増加』以外にも、『無表情の減少』『表情が豊かになった』とも評価された。一方、BPSDにも変化が見られた。中鎖脂肪酸摂取前の阿部式 BPSD 評価点は17点であったが、摂取後から『幻覚・妄想』『暴言』や『大声』等の項目を中心に8点→1点→2点→0点と改善した。

【考察】

笑顔の増加は顔認証ソフトでの客観的な評価と介護者の主観的な評価に同様の傾向がみられた。中鎖脂肪酸を継続摂取することで、笑顔が増加すると共に阿部式 BPSD 評価の改善が確認された。表情変化の数値化は、認知症の方々の QOL 改善に指標として活用できる可能性がある。